

# 身長, 体重は昨年を上回る

## — 昭和47年度学校保健統計調査の結果 —

幼児, 児童, 生徒の発育や健康状態を明らかにして、学校保健行政上の資料を得るため、文部省が毎年学校保健統計調査を実施しているが、このたび、昭和47年度に行なった調査の結果が概要つぎのとおりまとまった。

この調査は、文部省の示す抽出率（幼稚園 $\frac{1}{10}$ 、小学校 $\frac{1}{10}$ 、中学校 $\frac{1}{6}$ 、高等学校 $\frac{1}{6}$ ）にしたがい、県内の各学校から幼稚園27園、小学校59校、中学校33校、高等学校21校、あわせて190校を無作為抽出して、調査をしたも

のである。

なお、この数値は概数で、後日、文部省の公表によって確定数となる。

### 1 発育状態は各年齢とも年々向上

本県における幼児, 児童, 生徒の体位（身長, 体重, 胸囲, 座高）は年々向上している。

第1表 幼児, 児童, 生徒の年齢別身長, 体重の推移

(単位 cm, kg)

男 女, 年 度	幼稚園	小 学 校						中 学 校			高 等 学 校				
	5 歳	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
身長 {	男 {	昭和42年	108.9	113.4	118.7	123.7	129.0	133.7	138.5	144.9	152.0	158.4	163.6	165.4	166.6
		44	109.2	114.1	119.5	124.7	129.2	134.6	139.6	145.4	152.4	158.7	164.5	166.2	167.3
		46	110.5	114.1	120.1	124.6	130.0	134.6	139.6	146.6	153.5	159.6	164.7	166.4	167.8
	女 {	昭和42年	107.5	112.6	117.8	123.8	128.3	134.2	140.5	146.5	150.2	152.5	153.8	154.2	154.3
		44	108.3	113.1	118.6	123.6	128.9	134.8	141.4	146.6	150.6	152.8	154.6	154.9	155.0
		46	109.3	113.6	119.1	124.6	129.3	135.4	141.5	147.7	151.7	153.7	155.1	155.4	155.3
体重 {	男 {	昭和42年	18.4	19.5	21.7	24.0	26.5	29.4	31.7	36.8	42.1	47.6	52.8	55.2	57.2
		44	18.5	20.0	22.3	24.9	27.0	30.1	33.3	37.5	42.8	48.0	53.8	56.2	58.0
		46	18.8	20.1	22.5	24.8	27.6	30.1	33.5	38.9	43.8	49.0	54.9	56.7	58.7
	女 {	昭和42年	17.7	19.2	21.3	23.8	26.3	29.5	33.7	39.2	43.4	46.8	49.4	50.6	51.4
		44	18.0	19.7	21.8	24.8	27.0	30.4	35.1	39.7	44.2	47.4	49.9	51.1	51.6
		46	18.4	19.8	22.0	24.5	27.4	30.6	35.0	40.9	45.4	48.7	50.4	51.6	51.8
47	18.1	20.1	22.2	25.0	28.0	31.4	36.0	41.3	45.5	48.7	51.4	52.1	52.4		

第1表は、幼児、児童、生徒の体位のうち、身長および体重について、昭和42年以降の推移をみたものであるが、各年齢とも順調な伸びを示しており、胸囲、座高についても同様に伸びてきている。

なお、本年行なった調査結果をみると、幼稚園5歳児は昨年より若干下回ったが、小学校の6～11歳は、男子9歳、10歳の胸囲が昨年よりわずかに低下しただけで、その他はすべて上回っている。

中学校の12～14歳は、身長で12歳男女、胸囲で13歳男女および14歳女子が低下した以外は、昨年を上回る伸びとなっている。

また、高等学校でも一部に昨年より、低下したのがみられるが、全体的にみると、本県の児童、生徒の体位は昨年を上回る伸びとなっている。

## 2 健康状態は結核被患率、寄生虫卵保有率ともに減少

本年実施した健康診断のうち、とくに被患率の高い疾

病異常をみると、第2表のとおりである。

まず、各学校を通じて最も被患率の高いのはむし歯で、70～80%台となっており、低学年ほどその被患率が高い。つぎに高いのは、幼稚園ではへんとう腺肥大で5.8～7.5%、小、中、高等学校では近視で、小、中学校12.0～19.1%、高等学校26.7～36.6%となり、高学年になるほど高く、男子より女子の被患率が高い。

また、児童、生徒の結核被患率をみると、小学校0.05～0.09%、中学校0.03～0.08%で、被患者は1万人につき3～9人の割合であり、10年前（昭和37年）の1万人につき26～44人にくらべると大きく減少している。

なお、寄生虫卵の保有者も年々減少して、本年は、回虫卵保有率0.21～0.88%（昭和37年7.9～13.8%）、十二指腸虫卵保有率0.03～0.32%（昭和37年2.3～5.0%）となり、結核同様非常な減少を示してきている。

（県統計課人口学事統計係）

第2表 主な疾病異常被患率（昭和47年度）

（単位 %）

幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
男	女	男	女	男	女	男	女
むし歯 87.5	むし歯 88.1	むし歯 87.3	むし歯 86.9	むし歯 76.5	むし歯 76.1	むし歯 74.2	むし歯 77.3
へんとう 腺肥大 7.5	へんとう 腺肥大 5.8	へんとう 腺肥大 10.9	近視 12.0	近視 13.9	近視 19.1	近視 26.7	近視 36.6
近視 1.3	近視 1.6	近視 8.5	へんとう 腺肥大 10.0	へんとう 腺肥大 4.1	へんとう 腺肥大 4.0	その他の 歯疾異常 3.8	その他の 歯疾異常 4.5
せき柱 胸かく異常 1.2	その他の 歯疾異常 0.8	その他の 歯疾異常 2.5	その他の 歯疾異常 2.5	色神異常 3.1	その他の 歯疾異常 2.0	色神異常 3.4	その他の 屈折異常 2.7
その他の 歯疾異常 0.8	結膜炎 0.8	色神異常 2.1	結膜炎 1.3	その他の 歯疾異常 2.4	結膜炎 0.8	へんとう 腺肥大 1.9	へんとう 腺肥大 2.7